



日刊 日五月十
北滿鐵道のことはベイ
マンティエオオ、安泰
線のことを安泰路と稱
へてアンブオオ、
奉天線は奉天路、
シアンル、京奉線
は京奉路で、
トウル
と云ふやうに呼ぶ、

大藏省の近情勢

内務省では谷口技監の視察 関係地元は必死の運動

平市を中心とする国道六號線
の舗装は内務省の成案を大藏
省に廻されてあるが同省の情
勢に樂觀を許されざるものが
あり関係地の期成同盟會から
昨日青沼平市長、佐藤神谷
村長、木村大浦村長その他の
代表上京再陳情に努めたが適
々本縣に出張中の谷口三郎内
務技監が明後七日石城に來郡
小瀧温泉旅館に宿泊の翌八日
金森仙台土木出張所長と共に
右計畫路線及び小名濱商港並
びに鮫川橋の竣工を視察の後
歸京の管で期成同盟會では各
口技監の視察途上にも熱心な
陳情をなすことになつてゐ
るが大藏省に於ける最近の情
勢は河川港灣に有力な話題あ
るも国道改修には氣乗り薄の
模様なので地元不安が一方
でない

四倉蘭市況

平均一〇〇圓二九錢
四倉蘭市場に於ける取引状況
は引續き先高見越の高値を
唱ひてゐるが去三日及び昨日
の相場左記の如く若干の活
況薄を呈してゐる
△三日出廻り三八四五圓五
千圓余に達す

戦地の便り

何時かは手柄話を 仕度存じ居ります

栗城富士夫
平市村木町出身

日徒らに送るときは何かし
ら心苦しさを感し申して居
るがございませぬ、御立腹
の事と存じます、皆様には
御變りもなく御消光のこと
、推察致し居ります、小生
御蔭様にて無事勤務、討伐
に參加致し、病氣もせず未
だに微傷も負はずに居り
ます、此の様に遅れながら
も御便り出来る喜びをしま
ふ、感じ居ります、内地に
於ける戦後戦線も相當の激
しさと聞き及び申して居りま
す、戦地に居るとは云へ一

萩原義雄氏の 選挙費総額

一点平均五十二圓
石城郡部今次の縣會議員選挙
に於て不審選を一般から惜
まれてゐる萩原義雄氏の選挙
費総額は一千二百九十九圓余
を要せるものゝ如くこれを法
定の千八百八十七圓余に較ぶ
れば五百八十八圓余少なく同氏
の得票二千四百六十四票の一

支那單語

北滿鐵道のことはベイ
マンティエオオ、安泰
線のことを安泰路と稱
へてアンブオオ、
奉天線は奉天路、
シアンル、京奉線
は京奉路で、
トウル
と云ふやうに呼ぶ、

軍人遺家族慰安に 平美妓總山の演藝

来る八日午後一時公會堂で

市の銃後奉公會主催 盗まれた金は 全額を辨償

神信の千三百圓

植田藝妓組合で 國防と銃後會へ

特志寄附三件

遺家族慰安演藝

深山田に傳貧馬

久の濱校運動會

陸奥路の笹龍旗を 迎へて

建武神社に 悲壯に彷彿たり

同行の代筆で 縣議の投票

研町の火事 煙草の吹殻

錦の炭素工場 明年早々操業

公會へ寄附した 煙草の吹殻

建具徒弟の隠れ煙草
平市字研町八建具職鈴木勝彌
方の材料置場兼木取り場から
昨日未明火災した火災の原
因は平習の取調へによつて同
所は周囲に板塀があり外部か
らの侵入を想はれず平常火氣
を取扱はぬ出火に對し現場の
表土を掘返して見ると土中の
銅屑及び鉋屑が燃え傳はり物
置の土台に火が移つてゐるの
で徒弟等数名に煙草の火でな
いかと被疑渡邊善代吉(二八)假
名を嚴重に取調へ最初煙草
を吹はぬと言ひ張つた同人が
寢床の脇からバツトを發見さ
れ且つ枕元に喫煙の跡と吹殻
があるのを隠し切れず火災の
前日三日午後五時頃頃方から
箱物の隅板を取りよこされ
た際喫煙して吹殻を銅屑混
りの土中に埋めたものからと
判つた

深山田に傳貧馬

石城郡上遠野村の深山田宇内
の草吉田藤太郎所有養殖馬
十二才が傳貧馬組合を経て報
告四日縣の高橋技手出張眞征
と確定殺処分の手続をなした

遺家族慰安演藝

平鐵道クラブでは来る九、十
十一日の三日開演(午前十一
時)夜午後六時二回出征軍
人遺家族慰安の映畫と余
興會を催す

久の濱校運動會

明六日同校庭で
双葉郡久の濱小學校の秋季運
動會は明六日午前七時半から
同校庭に於て催されるが當日
雨天の際は順延する

特志寄附三件

平市鎌田町高田中尉遺族清
二氏は市内各種団体その他に
二百圓を寄附、また新川町木
村病院院長木村寅次郎氏は金三
十圓を、次へて田町清水水廣政
氏は金三圓を共に市の銃後奉
公會へ寄附した

植田藝妓組合で 國防と銃後會へ

石城郡植田町藝妓屋組合に於
ける出征軍人遺家族並に傷痍
軍人歸還兵を招く演藝會は去
る一日同町菊田座に催され純
益金から五十圓を國防費へ二
十圓を同町銃後會へ寄附す

陸奥路の笹龍旗を 迎へて

あ、其昔長途、入援の
悲壯に彷彿たり
諸根 樟一

建武神社に 悲壯に彷彿たり

あ、其昔長途、入援の
悲壯に彷彿たり
諸根 樟一

同行の代筆で 縣議の投票

石城郡江名町に
去る二十五日の縣議選挙に於
て石城郡江名町の永崎新妻寅
松(幸)は同部落の作山長一(四
〇)と共に投票所に入つたが無

研町の火事 煙草の吹殻

建具徒弟の隠れ煙草
平市字研町八建具職鈴木勝彌
方の材料置場兼木取り場から
昨日未明火災した火災の原
因は平習の取調へによつて同
所は周囲に板塀があり外部か
らの侵入を想はれず平常火氣
を取扱はぬ出火に對し現場の
表土を掘返して見ると土中の
銅屑及び鉋屑が燃え傳はり物
置の土台に火が移つてゐるの
で徒弟等数名に煙草の火でな
いかと被疑渡邊善代吉(二八)假
名を嚴重に取調へ最初煙草
を吹はぬと言ひ張つた同人が
寢床の脇からバツトを發見さ
れ且つ枕元に喫煙の跡と吹殻
があるのを隠し切れず火災の
前日三日午後五時頃頃方から
箱物の隅板を取りよこされ
た際喫煙して吹殻を銅屑混
りの土中に埋めたものからと
判つた

錦の炭素工場 明年早々操業

従業員募集開始
石城郡那珂の吳羽人絹工場北
側に出来る東京市昭和炭素化
學工業株式會社の活性炭炭素製
造工場(資本金百萬元)は目下
工事中で明年早々一部の操業
を開始の豫定で従業員百餘名
を募集することになつたが吳
羽工場に於ても硫酸工場の擴
張で増員を募つて居り豫定の
勞務者が得られるかどうかを
氣遣はれてゐる

陸奥路の笹龍旗を 迎へて

幸ひにして主事の杉山氏よ
り此等の事共を聞かされ、又
當會で察知した圖書類數部の
贈呈を受けてゐる所に、即ち
小御門宮司の一行が神旗に
先だちて着し、尋いで吉村氏

産業方面

桑園開作に

サフラン

鏡後農村に好個の副産として奨励

桑園の開作として奨励作物サフランの栽培に成功し農家の副業として多大なる利益をあげ得ることを立証、熱心にサフラン栽培を指導してゐる篤農家、千葉縣香取郡西村の多田猪之助氏は數年來の経験から桑園の開作に最適當なサフラン作を實證した、栽培法は育苗用に桑を摘み取つた跡に畦間を打ち返して整地をなし畦の中央より二分して片側に深さ三寸ぐらゐに植える、玉と玉の間は四寸位離し二條または三條に植える、片側は花を取るための通路として開けて置く、十月末から開花する花を取り終つた後冬期はその儘でよい、翌春除草して八十八夜頃掘り出し五、六日乾燥して貯へる、鼠が咬ふ懼れがあるから箱がよい一ヶ年の栽培で親玉は二、三個に分球する、非部は子玉が五、六個出来るから一千個植すれば一ヶ年後に親玉は分球して二千、三百個、子玉五千餘が出来る二年目には親球分球が約五千球それに前年の五千の子球は稍多量に施肥すれば立派な親球となるから合計親玉は一萬球、子球約一萬球となる、但し子球の親玉となつた玉よりは子玉はつき難いが二年の栽培で親玉一萬個、子球一萬個が繁殖する、四五年間に相當數になるわけである、

二、三千ぐらゐの栽培は片手間でも出来るし花の摘み取りは兒童にも出来るし芯部の抜き取りは夜燈火のもとで出来るから副業に最適である。

正確な体温計
なる寒暖計
計量器指定販賣

平市五丁目
山野透藥局

肉の御用命は

三三三屋

牛も豚も優良品の自慢

一般印刷物も御引受致します
新しいわき新聞社
印刷部

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

平市田町 電話五一三番
高久病院
院長 醫學士 高久忠

入院
應需

内科、小兒科

大森醫院

醫學士 大森 勇
平市南町 電二五八番

今般、醫學士井利明氏を副院長として招聘し
内科、小兒科の診療に従事せしむ

平病院 (平市元共濟病院跡)
電話六四一
院長 醫學博士 鈴木定藏

内科 院長 鈴木定藏
小兒科 副院長 土井利明
皮膚科 副院長 高橋俊幸
泌尿科 院長 鈴木定藏

物理療法科 院長 鈴木定藏
藥劑科 部長 吉本孝平

診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に從事す(急患は此の限りにあらず)

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴其他の
御集ひに御座敷

味覺實質
衛生萬點の
マルトモ食堂
平市四丁目(電話二二三番)

胃腸強生

研究十八年

元京都帝大教授 醫學博士 豊島豊次郎先生 創製

ミクローセ

★ ★ ★ ★ ★
能食 腹がすく食慾が出る。
能便 食べたものは無駄なく、榮養化され、便通は整ひ、快く排泄される。
能眠 ぐっすり眠れて、疲労は恢復する。
能働 能く精力が増し、十二分働ける。

ホシチエーンストアーにあり

平市三丁目三十番地
電話四二九番

星製藥株式會社 福島縣支部

【新發明】
世界に誇る日本最初の
有効菌を綜合せる
……ピルツ劑……

★ ★ ★ ★ ★

根本婦人科醫院

平市南町
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
(入院隨時)

明雲堂眼科醫院

平市三丁目裏川岸通
入院應需(自炊の便あり)
電話六六九番

帝國海上保險株式會社

安田系統の帝國海上
代理店 關内正一
事務取扱者 阿部勲次郎
平市三丁目 電話二六番

國民精神總動員

日本國民必見の書……

内閣情報部發行

寫眞週報

1部10セン

お取次致して居ります

平市 西村屋藥局 電三